

酔いどれ 取材メモ

5カ月ぶりのご無沙汰、酒好き事件記者の酒匂徳利です。徳利の徳さんと呼ばれるだけあって、こよなく愛する酒を冒瀆する奴はぜってーに許さない。このページでは毎回、酒がらみの事件を振り返りながら、酒キョーカイ関係者の意識を高めているつもりだ。そうすることで、むしろ酒のすばらしさを再認識できると思っているからだ。それが愛する酒への恩返しだと信じているから……。

直接事件とは関係ないが、たまにはこんな話もいだろう。夏休みを利用して、日ごろ疎かにしている家族サーブिसで夏の星空なんぞ見に行つたんだ。天の川を挟んだ「夏の大三角形」はとくに壮大なロマンを感じた。えっ、ガラにもない？ そんな一面も持ち合わせているんだと言いたいところだが、プラネタリウムに行つただけでも、解説付きで、冷房もバッチリ。酷暑から逃れるにはもってこい。

西の空にひととき目立つ星がある。うしakai座アルクトゥールス、別名、「麦星」だ。だが、

オレの頭の中は、麦という言葉からはビールしか浮かばない。

ビールに星空。そう、いま宇宙でビールの製造が研究されている。人類はあと10年ほどで火星に着陸できると言われていたが、同時に宇宙で様々な実験が行われている。特に重要視されているのが宇宙での栄養補給で、いまは野菜の栽培に力を入れている。国際宇宙ステーションではLED照明を利用した野菜栽培装置を設置したという。一方で、火星でビール市場を席捲するという野望を抱いているのがパドワイザーだ。製造元の米アンハイザー・ブッシュ社は昨年11月に、(パドワイザーは火星の微小重力環境でビールの原料がどのように反応するかをより深く理解するため、すでに様々な手段を講じている。人類が火星に到達したとき、パドワイザーがそこにあるようにするため)とリリースしている。パドワイザーは専門機関と提携して、すでに大麦の微小重力環境下での反応実験を2回行い、成長データを取得。近い将来、麦芽の製造テストも行うとしている。

火星で乾杯の日も夢ではなくなった。

そんな壮大なロマンとは裏腹に、この狭い島国では相も変わらず、酒がらみの事件が起きている。宇宙の話からすれば、みみっちい話かどうか聞いてくれ。

今年はサッカーのW杯イヤーで日本代表が熱い戦いをみせてくれた。その盛り上がりに乗じて、酔バカがやってくれた。ポーランド戦を終え、決勝トーナメント進出が決まった6月29日のこと。場所はお決まりの渋谷のスタラン

ブル交差点。酔った20歳の男子大学生が交通整理中の警察官の帽子を奪い、公務執行妨害の疑いで逮捕された。当初、「帽子をかぶっていた友人と間違えた」と言い訳していたが、その後、観念して容疑を認めた。

W杯後、日本列島は酷暑に見舞われた。すると、頭を冷やすだけでは済まされない酒絡みの事件が増加する。

7月2日深夜、原子力規制庁の幹部が千葉県流山市の居酒屋で、別の客の顔を殴って現行犯逮捕。同日、鹿児島市では擁護学校の教諭が、酒気を帯びたままでクルマを運転、道交法違反で逮捕。

7月5日には大阪市役所の43歳の男性職員が、酔いにかかせて路上を歩いていた女性の右胸をすれ違ひざまに触った疑いで、府迷惑防止条例違反容疑で現行犯逮捕。

同じく千葉県香取市の50歳の男性職員は、パチンコ店の駐車場で駐車中のクルマのサイドミラーを足蹴りして壊したとして、器物損壊の疑いで逮捕。例によって「覚えていない」と苦しい言い訳に終始した。

日本中央競馬会の54歳の名調教師が逮捕されたのは6日未明。滋賀県栗東市で酒気帯び運転で衝突事故を起こして逮捕された。

8月に入るとさらにひどい事件が起きる。福岡県では県

内の公衆電話から110番し、「今から交番に行つて拳銃を奪う」とウソの内容を告げた68歳のGGI(ジイ)が逮捕された。タクシーを止められなかった腹いせだという。成田に到着した米国人は、シカゴから成田へ向かう機内で、寝ていた男性客に放尿した。機内のヨッパライには鉄槌だ。都立高校の59歳の副校長が「性欲が抑えきれず」路上でナンパした酔っている女性をホテルに連れ込み御用。他にも、交番の窓ガラスを足蹴りした大学生、肩が触れた大学生をボコボコにして1万円強奪した消防士、大阪地検の事務官は駅のホームで女子大生の膝に触つたり腰に手を回して逮捕された。いずれも酔つたうえでの犯行だ。

暑さに加え、行き過ぎた飲酒は人を狂わす。ほどほどに――。

